

安芸市安芸町・西浜・東浜・黒鳥地区 地域農業の未来を考える集落座談会（１回目まとめ）

１．実施日時：令和６年９月６日（金）１４：００～１５：３０

２．実施場所：安芸市役所２階第１会議室（安芸市土居８２番地１）

３．参加者：地域の担い手等（５名）
JA高知県安芸営農経済センター等（３名）
高知県安芸農業振興センター（２名）
安芸市農業委員会（１名）
安芸市農林課（１名）

計１２名

４．テーマ：「安芸町他地区が目指す農業の将来像」

５．会議録（参加者からの意見）

①地域農業の現状及び課題

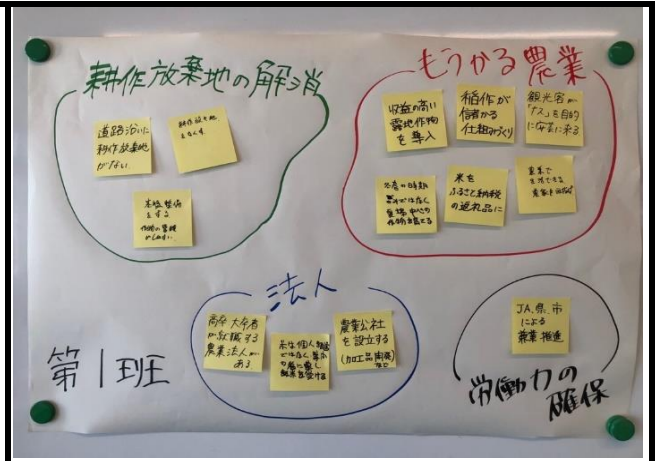
- ・近年の農業経営は非常に厳しく、若い子に就農を勧めることができない。
- ・特に米の単価が安く、稲作は大規模に作付するしか経営が成り立たない。
- ・雇用就農を目指す若者の受入先が少ない。
- ・耕作放棄地が目立ち始めている。
- ・市街地に近い当地区でもハクビシンなどの鳥獣被害が出ている。
- ・冬春の時期は良いが、定植前後の夏場は収入が減る傾向にある。
- ・ナスの加工品など６次産業が乏しい。
- ・集落営農のような機能を持つ組織がない。
- ・後継者確保の向け、農作業の効率化や生産性の高い就農環境を確保する必要がある。

②課題解決に向けた取組

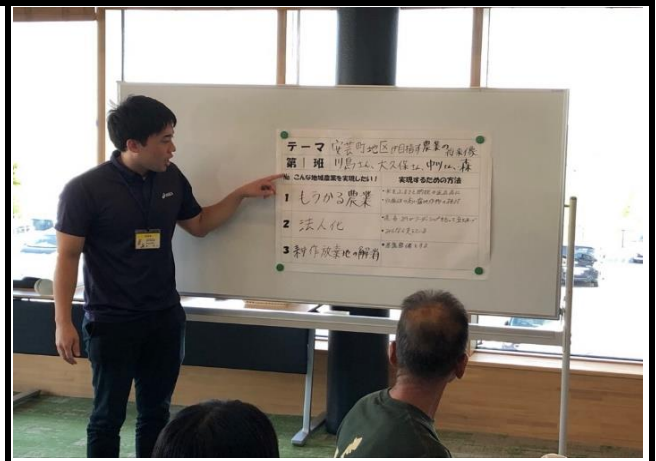
- ・「儲かる農業」の実現に取り組む。（米のブランド化、ふるさと納税制度の活用、ナス新品種の検討、新たな振興作物の導入による夏場の収入確保など）
- ・農業経営体の法人化を推進（担い手の雇用就農の受け皿、経営規模拡大等）
- ・農業公社など地域の課題解消を図る組織を立ち上げる。
- ・ナス加工品など６次産業化によるブランド化を推進する。
- ・基盤整備による農地の集積集約化を進めることで、耕作放棄地の解消のほか、農地の生産性、効率性を高める。
- ・将来の担い手確保に向け、就業環境を改善して農作業が楽にできるような取組産地として進めていく。（スマート農業の普及、拡大など）

【座談会の様子】

《第1班》



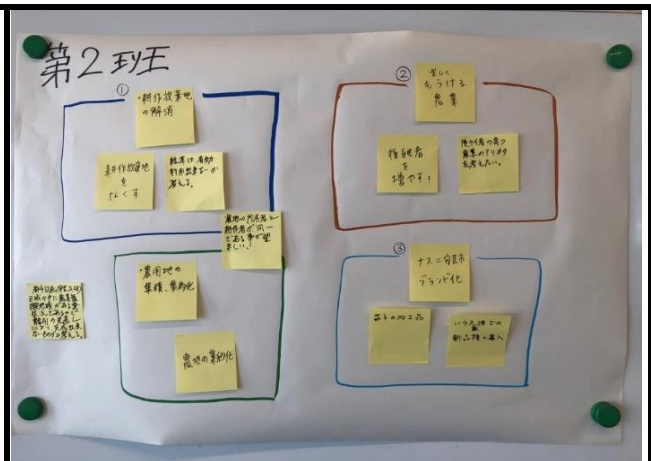
テーマ 安芸町地区が目指す農業の将来像	
第1班	
No. こんな地域農業を実現したい!	実現するための方法
1 もうかる農業	- 米をふるさと納税の返礼品に - 収益性の高い露地作物の模索
2 法人化	- 県・市・JAのパートナーシップをもとに立ちあげる - 法人化など変えていく
3 耕作放棄地の解消	基盤整備をする



■班内で出された意見■

- ・「農業」という職業で生活していけるようにすることが必要。昔の「農業」は休みもなく大変だったが、稼げて魅力ある職業だった。
- ・米の値段が安く、専業で稲作経営するには最低でも4～5haが必要。
- ・稲作は個人農家が片手間でやるより、専業大規模農家が一手に行う方が効率的。
- ・米のブランド化やふるさと納税の活用など、稲作が儲かる仕組みを検討する。
- ・冬春の時期のみではなく、夏場中心の作物を栽培する。
- ・耕作放棄地となった田で収益性の高い露地作物を作る。（販路や出荷面で課題あり）
- ・高卒、大卒者が就職できるような農業法人があれば、就農の選択肢が増えて良い。
- ・観光客がナスを目的に来るような地域になってほしい。
- ・JAや県、市など関係機関が協働で労働力の確保に取り組む。（職員兼業制度他）
- ・農業公社などを設立し、耕作放棄地の解消から加工品の開発、販売まで担ってもらえたら。

《第2班》



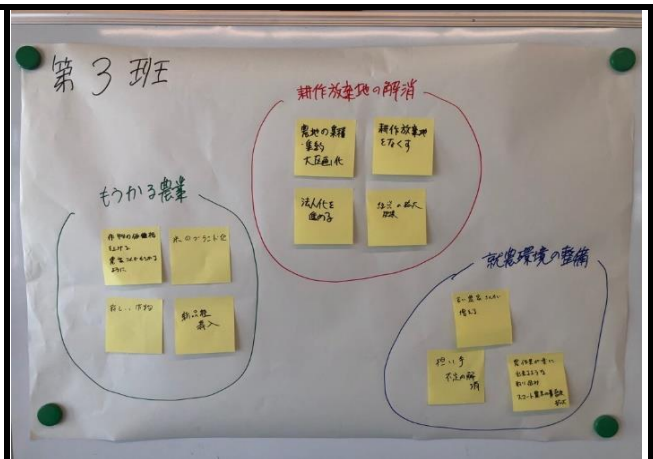
テーマ 安芸町地区が目指す農業の将来像	
第2班	
No. こんな地域農業を実現したい!	実現するための方法
1 耕作放棄地の解消	・雑草を有効利用できないか研究 ・貸し手と借り手をマッチングするシステム ・所有者と耕作者が同一
2 楽しく稼げる農業	・後継者を増やす ・収益性の高い農業
3 ブランド化	・ハウス栽培での新品種の導入 ・ナスの加工品開発



■班内で出された意見■

- ・後継者が育つような農業の在り方を考える必要がある。
- ・楽しく稼げる農業ができる地域にする。
- ・施設園芸（ハウス栽培）での新品種の導入を検討する。
- ・ナスの加工品などを検討し、「ナスと言えば安芸市」のブランド化を進める。
- ・農地の所有者と耕作者は同一であることが望ましい。
- ・農用地の集積、集約化が欠かせない。
- ・都市計画区域内に農業振興地域がある状況のため、線引きの見直し等により共存していくことが重要。
- ・雑草の有効利用が出来ないか検討する。

《第3班》



テーマ 安芸町地区の目指す農業の将来像	
第3班	
No. こんな地域農業を実現したい！	実現するための方法
1 耕作放棄地の解消	・農地の集積・集約、大規模化 ・法人化を促める
2 もうかる農業を実現する	・新品種の導入 ・米のブランド化
3 就業環境の整備を図る	・スマート農業の普及と拡大 ・担い手不足の解消



■班内で出された意見■

- ・農家所得を向上させるため、作物の価格を上げることが先決。
- ・米のブランド化に取り組んではどうか。
- ・ナスの新品種や新たな振興作物を検討する。
- ・担い手不足解消に向け、就業環境を改善する必要がある。
- ・農作業が楽にできるような取組を推進する。（スマート農業の普及、拡大）
- ・生産性、効率性を高めるため、農地の集積を進める。
- ・経営体の法人化を進めて経営規模を拡大させる。
- ・基盤整備により耕作放棄地をなくす。